

『マコはハルモニア・ムンディにのって踊る』(5) 今自分がここにある意味

ロクスひよりやま キャプテン 中井 淳 SJ
(旧下関労働教育センター イエズ会神父)



すべてのいのちを守る月間である 9 月のとある日曜日、マコは広島教区の司教座である幟町教会にいた。マコを居候させてくれている瀬川耕太神父によるミサ後の講話を手伝うためだった。瀬川神父は 2 年前にフランスを訪れた際に手に入れた『エコロジカルな回心のための霊的な旅路』という本を翻訳して、いよいよそれが出版されるので、このエコロジーを考える季節に合わせて記念講話が行われたのだ。

講演を聞きながら、マコは不思議な想いの中にいた。自分が瀬川神父と出会い、西日本のとある街に住みながら、広島教区の活動に関わっているということに何か大きな手が働いている感じがするのだ。広島教区は、核なき世界を作っていこうと頑張っている司教さんがおり、日本のカトリック教会で先駆けて教区の中に「ラウダート・シ」デスクが作られた。そこでボランティアをしているまゆみさん、他にも司教さんの思いと心をつなぐ頑張ろうとするよき仲間たちがいる。

つい先日、東京に行く用事があった際、マコは一人暮らしをしている祖母を訪ねた。なんととはなしに、祖母の父のことを尋ねてみた。祖母が小学生の時に亡くなったということ、とても能力のある建築技師で、東京のカトリックの女子校の庭園を作ったことなどはなんとなく知っていたけれど、どんな人生だったのか、なんとなく聞いてみたくなったのだ。「そうねえ。優しいお父さんだったわよ。ちょっとそそっかしいところもあったりしたけど、私たちを本当に可愛がってくれたの。」そうやって、遠い日々を懐かしそうに追憶しながら祖母はマコの曾祖父の栄造さんについて話してくれた。

祖母は太平洋戦争中は戦火を免れるために疎開先を転々としていた。栄造さんは、その建築技師としての経験がかわれ、内務省の都市計画委員会に入れられており、さまざまな町へ派遣されていたのだそうだ。祖母が広島に疎開していたときもあったが、原爆が落ちる前に関東の方に移ったのだそうだ。栄造さんは、内務省の指示のもと原爆直後の広島に入って、市内をくまなく回り調査をしたのだという。それから 5 年

後、三ヶ月続けて狭心症を発症し昭和 25 年 8 月 19 日の早朝、息をしていないことに隣で寝ていた曾祖母が気づいた。誰かを呼ばなければと曾祖母が外に飛び出して駆けていくとシスターが踏切のところに立っていて臨終の洗礼を授けてくれたという話、あと四日早ければ遺族年金が出たのだという話もしてくれた。

戦後 80 年、平和へと向かって仲間たちと歩いていく道においてマコは大事な地点に立っているのだと感じた。原爆直後に曾祖父が広島にいたこと。今、マコが広島教区で活動していることは、大きな神の意志が働いていること、曾祖父が天からマコを見守ってくれているような気がするのだ。

瀬川神父の訳した本は、エコロジカルな回心のための祈りの旅路を歩みながら、具体的な活動へと私たちを導いてくれる。この本を通して、たくさんの人たちが地球を癒すため、核なき世界を作っていくための変容の道を歩んでいくことができるようにわたしも尽力しなくちゃ。そうマコは心に決めたのだった。
(つづく)

【教友社より 10 月発売決定！ お問い合わせは、ラウダート・シ デスク（正義と平和推進デスク）まで】

★カトリック広島教区 ハラスメント相談窓口：広島教区人権擁護デスク★

受付時間 木曜日（祝日を除く）9:00～16:00 電話番号 082-555-1127

メール：desk-hiroshima@catholic.hiroshima.jp

H・SocialH・Social***H・Social***H・Social***H・Social***H・Social***

発行 カトリック広島教区 平和の使徒推進本部 正義と平和推進デスク

TEL：082-221-6613 FAX：082-221-6019 E-Mail info@social-desk.net



9/21 すべてのいのちをまもる月間 講演会の動画配信 QR コード

